

琉球水難救済会投稿～ヘリコプターと救難所員が4名を連携救助

【投稿】 琉球水難救済会投稿 平成22年10月28日

沖縄の青い海はダイビングだけではなく、釣りも盛んである。釣り人は成果を求めて沿岸から沖合いの岩場に渡っていくが、沖縄本島北部の国頭救難所管内では、思わぬ事故も発生する。

去る10月9日、国道沿いの与那トンネル沖合いの二箇所の岩場にゴムボートで渡った釣り人は、うねりが高まってきたことからボートに移乗することが出来ず孤立してしまっただ。

海岸からこの状況を見ていた釣り人の通報で海上保安庁のヘリが出動、同時に国頭救難所から漁船1隻、また近郊のリゾートのオクマ救難所からは水上バイクが出動した。

大きな岩場の孤立者は海保のヘリで吊り上げ救助したが、小さな岩場の2名は海中に転落し大きなうねりの中を、クーラーボックスにしがみついで漂流していたが、現場に到着した漁船と水上バイクで揚収救助した。

場所が国道沿いだったこともあり、ヘリによる吊り上げや救難所の船艇による救助の様子は多くの見学者の面前で実施され、遭難者が救助される時は拍手と賞賛の声があがった。

琉球水難救済会では25日、それぞれの救難所と救助員を表彰した。



〔救助を待つ遭難者〕



救助に向かうオクマ救難所員(水上バイク)と国頭救難所員(漁船)



〔社団法人琉球水難救済会〕ヘリで吊り上げ救助



国頭救難所・オクマ救難所

